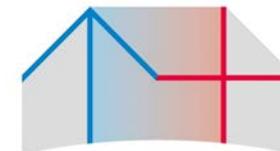


# 一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

## 設置目的

学協会間での連携協力を行いながら，科学技術の分野において，女性と男性がともに個性と能力を發揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い，社会に貢献することを目的とする。

2002年7月：男女共同参画学協会連絡会準備会開催

2002年10月7日：男女共同参画学協会連絡会設立集会

12学協会（化学工学会，高分子学会，日本宇宙生物化学会，日本植物生理学会，日本数学会，日本生物物理学会，日本生理学会，日本天文学会，日本分子生物学会，日本動物学会，日本化学会，日本女性科学者の会，日本物理学会，応用物理学会）

## 【行政】

1999年6月：「男女共同参画社会基本法」公布・施行

2000年6月：内閣府男女共同参画推進本部主催

「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」開催

（シンポジウム「科学の進捗と男女共同参画」

2000年12月：「男女共同参画基本計画」閣議決定

## 【日本学術会議】

2000年6月：

「女性科学者の環境改善の具体的措置について」の要望 及び

「日本学術会議における男女共同参画の推進について」の声明の  
発出

## 組織図

正式加盟学協会  
(54学協会)

オブザーバー加盟学協会  
(64学協会)

運営委員会

各種ワーキンググループ

## 主な活動

大規模アンケート  
加盟学会の女性比率調査  
加盟学協会の活動調査  
シンポジウム  
提言・要望活動  
女子中高生の理系選択支援

## 正式加盟学協会 (54学協会)

化学工学会, 高分子学会, 日本宇宙生物科学会, 日本化学会, 日本原子力学会, 日本女性科学者の会, 日本植物生理学会, 日本数学会, 日本生態学会, 日本生物物理学会, 日本生理学会, 日本蛋白質科学会, 日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本物理学会, 日本森林学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本神経科学学会, 日本バイオイメージング学会, 日本糖質学会, 日本育種学会, 日本結晶学会, 日本地球惑星科学連合, 日本繁殖生物学会, 生態工学会, 錯体化学会, 日本進化学会, 日本遺伝学会, 日本建築学会, 種生物学会, 日本獣医学会, 日本質量分析学会, 日本魚類学会, 日本畜産学会, 日本木材学会, 日本技術士会, 日本植物学会, 園芸学会, 日本農芸化学会, 日本解剖学会, 日本中性子科学会, 「野生生物と社会」学会, 計測自動制御学会, 日本体力医学会, 日本熱帯医学会, 日本応用数理学会, 日本衛生学会, 日本健康学会, 日本内分泌学会, 日本国際保健医療学会, 日本海洋学会, 日本地形学連合, 日本熱帯生態学会, 日本加速器学会

## オブザーバー加盟学協会 (64学協会)

映像情報メディア学会, 自動車技術会, 精密工学会, 地盤工学会, 電気化学会, 日本データベース学会, 日本液晶学会, 日本磁気学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本女性技術者フォーラム, 日本鉄鋼協会, 日本分析化学会, 土木学会, 石油学会, 日本科学者会議, 日本バイオインフォマティクス学会, 日本水産増殖学会, 日本表面真空学会, 日本鳥学会, 日本放射光学会, 歯科基礎医学会, 日本セラミックス協会, 植物化学調節学会, 日本天文学会, 日本植物バイオテクノロジー学会, 日本組織細胞化学会, 応用物理学会, 日本流体力学会, 電子情報通信学会, プラズマ・核融合学会, 日本数式処理学会, 日本植物病理学会, 日本発生生物学会, 日本蚕糸学会, 日本霊長類学会, 日本土壌肥料学会, 日本放射線影響学会, 日本DNA多型学会, 日本食品科学工学会, 日本腎臓学会, 日本薬学会, 日本脂質栄養学会, 軽金属学会, 日本科学教育学会, 日本航空宇宙学会, 日本衛生動物学会, 日本分子生物学会, 日本神経化学会, 日本燃烧学会, 環境ホルモン学会, 日本高血圧学会, 日本水産学会, 情報処理学会, 日本生化学会, 日本痛風・尿酸核酸学会, 日本魚病学会, 日本地質学会, 日本コンピュータ外科学会, 日本大気化学会, 日本地球化学会, 日本統計学会, 日本気象学会

## 幹事学会（1年ごと）

- 第1期：応用物理学会
- 第2期：日本物理学会
- 第3期：日本化学会，日本原子力学会
- 第4期：日本分子生物学会
- 第5期：日本生物物理学会
- 第6期：日本地球惑星科学連合
- 第7期：電子情報通信学会
- 第8期：高分子学会
- 第9期：日本宇宙生物科学会・生物工学会
- 第10期：日本生理学会
- 第11期：日本動物学会
- 第12期：日本数学会
- 第13期；日本植物生理学会・日本植物学会
- 第14期：日本生化学会
- 第15期：化学工学会
- 第16期：日本建築学会
- 第17期：日本物理学会
- 第18期：日本農芸化学会
- 第19期：日本技術士会
- 第20期：日本生物物理学会

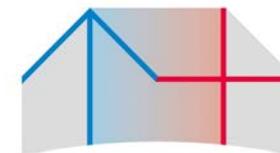
## 幹事学会委員長

第1期委員長	小舘 香椎子 (第21-22期日本學術會議連携會員)
第2期委員長	坂東 昌子 (第20-21期日本學術會議連携會員)
第3期委員長	相馬 芳枝 (第21-22期日本學術會議連携會員)
第4期委員長	大隅 典子 (第21-22期日本學術會議會員, 第23-26期日本學術會議連携會員)
第5期委員長	美宅 成樹 (第21-22期日本學術會議連携會員, 第23-24期日本學術會議連携會員)
第6期委員長	中村 正人 (第22-25期日本學術會議連携會員)
第7期委員長	広崎 膨太郎
第8期委員長	栗原 和枝 (第20-22期日本學術會議會員, 第23-26期日本學術會議連携會員)
第9期委員長	跡見 順子 (第20-21期日本學術會議連携會員, 第24期-第25期日本學術會議特任連携會員)
第10期委員長	関野 祐子 (第23-26期日本學術會議連携會員)

## 幹事学会委員長

- 第11期委員長 澤田 美智子  
第12期委員長 平田 (河野) 典子 (第22-25期日本学術会議連携会員)  
第13期委員長 西村 いくこ (第21-22期日本学術会議連携会員,  
第23-24期日本学術会議会員,  
第24-25期日本学術会議連携会員)  
第14期委員長 小川 温子 (第21-22期日本学術会議連携会員)  
第15期委員長 北川 尚美 (第22-24期日本学術会議連携会員,  
第25期-26期日本学術会議会員)  
第16期委員長 寺田 宏  
第17期委員長 野尻 美保子 (第23期日本学術会議連携会員,  
第24期-25期日本学術会議会員)  
第18期委員長 熊谷 日登美 (第23期日本学術会議連携会員,  
第24期-25期日本学術会議会員)  
第19期委員長 岩熊 まき  
第20期委員長 原田 慶恵 (第21-26期日本学術会議連携会員)

一般社団法人  
男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

# 大規模アンケート

<https://www.djrenrakukai.org/enquete.html>

# 大規模アンケート

## 目的

- 科学技術専門職の **実態把握と課題の抽出**  
基礎データ（年齢・性別・職位・所属機関・学位、等々）  
役職などの男女差・子育てと介護・任期付き職＋ポスドク  
施策認識・自由記述
- **継時的な定点調査 → 実態や意識の追跡**
- データに基づいた **提言・要望活動**

## 意義

- 施策への反映  
白書への掲載・国の基本計画に明文化・国の支援事業に反映
- 啓発活動・成果の発信

# 大規模アンケート

## 2003年 第1回大規模アンケート

設問項目24 (所属39学会)

回答数19,291件

コア学会：応用物理学会

## 2007年 第2回大規模アンケート

設問項目36 (所属64学会)

回答数14,110件

コア学会：生物物理学会

## 2012年 第3回大規模アンケート

設問数46 (所属98学会)

回答数16,314件

コア学会：日本神経科学会・日本動物学会

## 2016年 第4回大規模アンケート

設問数42 (所属90学会)

回答数18,159件

コア学会：化学工学会・日本建築学会

## 2021年 第5回大規模アンケート

設問数44 (所属115学会)

回答数19,505件

コア学会：日本技術士会・日本生物物理学会

# 緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査



調査時期：2020年5月15日（金）～6月13日（土）

（総回答者数：11,112人）

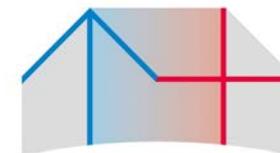
調査対象：男女共同参画学協会連絡会会に所属する

自然科学系学会の学会員・人文社会学系学会の研究者・技術者

- ◆緊急事態宣言時の制約から、回答者の約8割が今後の研究や教育に不安を抱いている
- ◆任期・契約期間付き職や学生は特に大きな不安を抱えている
- ◇その不安の要因は、
  - 1)任期内に研究を遂行できないため評価が下がる
  - 2)将来の雇用への影響
  - 3)単位取得への影響、などであることが、自由記述より推定される
- ◇留学を中断せざるを得なくなった学生やポスドクが、無給で研究を続けている、という自由回答も複数存在する
- ◆教員の8割超が、十分な学生指導を行えないことに不安を抱いている
- ◆家事・育児の負担が増え、勤務の支障となったという回答は女性に多い

[https://www.djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2020/survey\\_covid-19/index.html](https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2020/survey_covid-19/index.html)

一般社団法人  
男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

提言・要望活動

[https://www.djrenrakukai.org/proposal\\_request.html](https://www.djrenrakukai.org/proposal_request.html)

# GEMST Formulae

## 女性教員割合の段階的増加策の提案

女性教授と博士課程大学院女子学生割合を同じにするには  
**最速でも15年**かかる

### 2021年～2025年までに・・・(第1 Step)

助教の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	1
准教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	0.7
教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	0.4

### 2026年～2030年までに・・・(第2 Step)

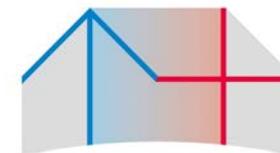
准教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	0.9
教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	0.7

### 2030年～2035年までに・・・(第3 Step)

准教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	1
教授の女性割合	=	博士課程大学院女子割合	×	1

達成させるためのポイントは、分野ごとの設定

一般社団法人  
男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

学協会の女性比率調査  
学協会の活動調査

<https://www.djrenrakukai.org/enquete.html#ratio>

# 女性比率調査と活動調査

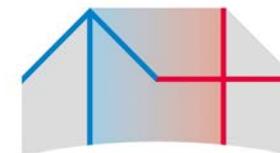
## 女性比率調査（2年ごと）

- 総会員数
- 一般会員数
- 学生会員数
- 会長・副会長
- 理事・監事
- 評議員・代議員
- 委員会
- 学会誌編集委員
- 英文論文誌編集委員
- 和文論文誌編集委員
- 男女共同参画委員
- その他の委員会の委員

## 活動調査（2年ごと）

- 男女共同参画委員会の有無
- 男女共同参画シンポジウムの開催回数
- 保育所利用者延べ人数

一般社団法人  
男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

# シンポジウム

<https://www.djrenrakukai.org/symposium1.html>

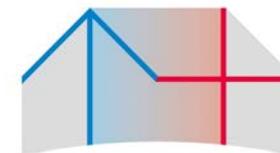
# シンポジウム

- 設立記念集会(2002,東京)
- 1周年記念シンポジウム (2003,東京)  
「男女が共に生きる社会」
- 2周年記念シンポジウム (2004,東京)  
「多様化する科学技術研究者の理想像：学協会アンケートが示すもの」
- 3周年記念シンポジウム (2005,東京)  
「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」
- 第4回シンポジウム (2006,東京)  
「育て、女性研究者!!理工系女性研究者支援の新しい波」
- 第5回シンポジウム (2007,愛知)  
「真の男女共同参画へ向けて意識を変えよう！」
- 第6回シンポジウム (2008,京都)  
「科学・技術の成熟と新たな創造をめざして  
— 第二回連絡会アンケート調査報告から学ぶもの—」
- 第7回シンポジウム (2009,東京)  
「持続可能社会と男女共同参画」
- 第8回シンポジウム (2010,埼玉)  
「男女共同参画と社会」
- 第9回シンポジウム (2011,茨城)  
「今、社会が科学者に求めること—ソーシャル・ウィッシュ」

# シンポジウム

- 第10回シンポジウム (2012,東京)  
「科学・技術における性差」
- 第11回シンポジウム (2013,東京)  
「多様性尊重社会を目指してー第3回大規模アンケート結果報告よりー」
- 第12回シンポジウム (2014,東京)  
「女性研究者・技術者を育む土壌～連携・融合による支援をめざして～」
- 第13回シンポジウム (2015,東京)  
「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」
- 第14回シンポジウム (2016,東京)  
「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか？」
- 第15回シンポジウム (2017,東京)  
「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」
- 第16回シンポジウム (2018,東京)  
「今なお男女共同参画をはばむもの新たな次のステップへ」
- 第17回シンポジウム (2019,東京)  
「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」
- 第18回シンポジウム (2020,ウェブ)  
「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために  
～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～」

一般社団法人  
男女共同参画学協会連絡会



男女共同参画  
学協会連絡会

# 無意識のバイアス リーフレット・オンラインビデオ

[https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/see\\_bias\\_block\\_bias/index.html](https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/see_bias_block_bias/index.html)

# 無意識のバイアス リーフレット

## 2016年10月に開催した学協会連絡会シンポジウムにおける Machi Dilworth先生（沖縄科学技術大学 副学長）の基調講演の内容をまとめたリーフレット

4

例6：教授の推薦状には男女で違いがある！  
指導教授が書く女性候補者への推薦状は男性候補者への推薦状と比べて短く、男性候補者の推薦状には「ずば抜けて優れている (Outstanding)」, 「非常に優れている (Excellent)」という優秀さを表す言葉が頻用されるが、女性候補者には「細心」, 「よく働く (Hard-working)」等の態度を表す言葉が多い, といった事例が挙げられています。  
「よく気がついて協力的」という「女性の役割に対する既成概念」が「無意識のバイアス」となって推薦状の内容に反映されたものでしょう。  
F. Trix and C. Psenka (2003) Discourse & Society, 12, 191-220.

例7：学会賞受賞者割合にもバイアス！  
女性教員が学術・研究賞を受賞する割合は、専門分野に占める女性割合に比べて一貫して低いのですが、優れた授業やサービスに対する賞の受賞割合は女性の方が常に高い (図 3A) という報告が AWIS ジャーナルに出ています。この事実も「女性の役割についての既成概念」に基づいた無意識のバイアスの現れと考えられます。  
このような状況を変えるには、学会トップの意識的な介入と努力が必要です (図 3B で赤矢印は学会トップの働きかけが行われた年) 折れ線グラフの上下が示すように、トップの意識的な努力の継続がなければ、容易に元のレベルにもどることもよく知られている事実です。  
AWIS #02 in AWIS AWARDS Series (www.awis.org)

図3A. 各分野における学術賞及び教育/サービス賞の女性割合

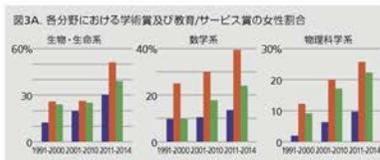


図3B. 学術賞受賞女性割合の経年変化 (2010-2014)



■ 「無意識のバイアス」の影響が出やすい状況

以下のような状況では無意識のバイアスが現れやすいので、留意しましょう。

- ・ 選れている時、判断を急いでいるとき、色々な情報で脳がオーバーロードの状態にあるとき
- ・ 候補者の中の女性割合が大変低いとき
- ・ 業績に関する正確な、あるいは適切な情報が不十分なとき
- ・ 評価基準があいまいで、紛らわしいとき

5

■ あなたの「無意識のバイアス度」測定法

「無意識のバイアス」の程度を測定する方法があります。ハーバード大学のナージ教授のグループが開発した IAT テストがそうです (Implicit Association Test)。WEB 上でテストを受けることができます。日本語のサイトもありますので、試してみてください。ただし、この日本語版はハーバード版がそのまま翻訳されたものです。今後、日本の実情に合わせた IAT テストの開発が必要でしょう。  
<https://implicit.harvard.edu/implicit/japan/takeatest.html>

■ 「無意識のバイアス」を克服するために

アメリカ科学財団 (NSF) のプログラム、ADVANCE の支援の下、「無意識のバイアス」を克服するための様々な研修用ツールを開発・提供している 4 つの大学を挙げます。

- University of Wisconsin-Madison ( ウィスコンシン大学マディソン校 )  
Women in Science & Engineering Leadership Institute (WISELI)  
<http://wiseli.engr.wisc.edu/>
- University of California, Berkeley ( カリフォルニア大学バークレイ校 )  
Tools for Change, University of California  
<http://www.toolsforchangeinstem.org/>
- University of Washington, Seattle ( ワシントン大学シアトル校 )  
The UW ADVANCE Center for Institutional Change  
<https://advance.washington.edu>
- Stanford University ( スタンフォード大学 )  
The VMware Women's Leadership Innovation Lab at Stanford University (SEE BIAS/BLOCK BIAS)  
<https://womensleadership.stanford.edu/tools>

■ おわりに

無意識のバイアスは、誰もが持っているものです。しかし、その存在を自覚することによって、弊害を抑えることも可能なのです。ここで示された事例は一例を挙げて、研究が先行しているアメリカの事例です。私たちは日本の事例をさらに集めることが必要です。そのことが、我が国の大学・研究機関によりふさわしいガイドラインやツールキットを生み出すことにつながります。本リーフレットが、皆様の職場や学会において、バイアスを越えて人材の多様化を進める一助となることを改めて望むものです。

■ 問い合わせ先

このリーフレットは、2016年10月8日、お茶の水女子大学で開催された第14回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム、分科会1における Machi Dilworth 先生 (OIST 副学長) の基調講演をもとに分科会1関係者 (下記) がとりまとめたものです。大坪久子・小川遥子・澤崎達也・松島綾美 (男女共同参画学協会連絡会) Machi Dilworth (沖縄科学技術大学院大学)

一切の無断転載を禁ず

本リーフレット内容の引用に際しては、著作権法の規準を満たし、かつ科学論文の引用スタイルに準ずること。本文をそのまま引用する場合は、引用部分を明確に示すこと。なお、引用元として「無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか？」男女共同参画学協会連絡会著 (2019) と出典を明記し、連絡会の掲載ホームページを付記すること。  
[https://www.djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2019/UnconsciousBias\\_leaflet.pdf](https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2019/UnconsciousBias_leaflet.pdf)



無意識のバイアス  
- Unconscious Bias -  
を知っていますか?

2019年3月  
初版改訂版  
男女共同参画学協会連絡会  
Copyright © 2017 EPMEWSE  
一切の無断転載を禁ず

## SEE BIAS and BLOCK BIAS

無意識のバイアスを理解し、その影響を最小限に抑えるために私たちは何ができるのかをテーマに、学生や教員、執行部、研究者・技術者および人事担当者などを対象としたオンラインビデオと資料を作成しました！

### Part I

無意識のバイアス  
-Unconscious Bias-  
を知っていますか？

—選ぶ側にもバイアスがある—



[ビデオをみる >>](#)  
[資料 >>](#)

### Part II

無意識のバイアス  
を知っていますか？

—選ばれる側にもバイアスはある—



[ビデオをみる >>](#)  
[資料 >>](#)

### Part III

無意識のバイアスを  
ブロックしよう

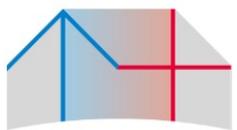


[ビデオをみる >>](#)  
[資料 >>](#)  
[無意識のバイアスチェックシート >>](#)

# 令和4年度 内閣府「女性のチャレンジ支援賞」受賞

18年間に渡り実施した2万人規模の定期的な実態調査により、日本の理工系女性研究者が置かれている厳しい研究環境の実態を統計データ化し、抽出した課題を内閣府および文部科学省へ提言・要望化。第3期科学技術基本計画において分野別の女性研究者の採用目標値が設定されるなど、女性が研究を継続しやすい環境作りに貢献。女子中高生に対する理系選択支援や勉強会、科学技術分野における女性参画の必要性と重要性を啓発すべく、講演活動を多数実施。





EPMEWSE

一般社団法人

# 男女共同参画学協会連絡会

THE JAPAN INTER-SOCIETY LIAISON ASSOCIATION COMMITTEE FOR PROMOTING EQUAL PARTICIPATION OF MEN AND WOMEN IN SCIENCE AND ENGINEERING

Home

本連絡会について ▾

本連絡会の活動 ▾

無意識のバイアス ▾

それが私たちの願い

支えたい

あなたのその気持ちを

科学が好きという

